

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
761760	
選定番号	235

代表者 校園名： 大阪市立長橋小学校  
 校園長名： 原田 哲次  
 電 話： 06-6561-4692  
 事務職員名： 岡田 歩美  
 申請者 校園名： 大阪市立長橋小学校  
 職名・名前： 主務教諭・安井 理恵  
 電 話： 06-6561-4692

## 令和2年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和2年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	児童一人一人の特性を見極め確かな学力を身に付けるための指導のあり方 —発達に課題のある児童・生徒への支援と環境整備を通して—			
3	研究目的	○発達に課題のある児童・生徒への支援方法の考察 ○環境整備UD化の追究 ○同一進学校下の学校で連携し、児童・生徒の課題に対する協同的支援の実施 ○専門的な講師による研修会や講演会への参加を通じた、教員の専門的知識と自己研鑽の意欲の向上			
4	取り組んだ 研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコピック 10点印)	1) 連携三校協議会 ・7月20日(本年度の研究内容の共有・事前アンケート作成・教員研修プログラム作成) 長橋小学校・北津守小学校・鶴見橋中学校	2) アタッチメント研修会・講演会 ・9月14日 花園大学准教授	3) 児童理解研修会・コグトレ研修会 ・10月15日 10月29日 1月13日 1月14日 1月21日 株かなえるリンク 作業療法士
		4) 愛着障害研修会・講演会 ・11月4日 和歌山大学教授	5) 児童理解向上のための研修への参加 ・学びの発達アテンダント 8月 ・LD学会 10月	6) 授業公開（1年）・研修会を開催し、児童のアセスメントを活かした指導力の向上 1月13日 講師 株かなえるリンク 作業療法士 ・今年度の「がんばる先生支援」研究支援の報告会を行った。 ・授業検討と研修会を通して発達課題のある児童に対しての手立てや支援法を検討した。	7) ビジョントレーニング・コグトレ・愛着障害に関する書籍購入 ・各クラスで取り組めるようワークシートや研究図書を購入し、認知機能トレーニング

	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
	<p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p>○認知機能や視機能を向上させるトレーニングに関する研究を進めることにより、児童の「対人スキルの獲得」や「書く力」・「読む力」・「運動能力」などを育成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>3校の抽出学級の児童を対象としたアンケートの「人とうまくコミュニケーションをとることができますか」の質問項目において実践前後で比較し3ポイント上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>校内で実施したコミュニケーションスキルを問うアンケートで検証と考察を行うこととした。「あいさつはできているか」「失敗したときすぐにあやまることはできるか」などの質問項目に対する肯定的な回答の結果(調査対象：1年 24名)</p> <p>7月 100% ⇒ 2月 100%</p> <p>肯定的な回答が100%という結果となった。しかしながら抽出学級が低学年であったため、実際の結果とは差があると感じられる。今後はアンケートの項目をさらに検討するなどの改善が必要であると考えられる。</p>
	<p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p>○認知機能や視機能を向上させるトレーニングに関する研究を進めることにより、児童の「対人スキルの獲得」や「書く力」・「読む力」・「運動能力」などを育成し子どもの自信につなげる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>3校の抽出学級の児童・生徒を対象とした視写テストにおいて速度と正確性を実施前より上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>正しく図形を描き写したり、記号の場所を正しく覚えるなどの「見る力テスト」（株かなえるリンク児童アセスメントチェックシートより）の正答率(調査対象：1年)</p> <p>7月 ⇒ 21% 1月 ⇒ 63%</p> <p>正答率の目標を大きく上回り、42ポイント上昇させることができた。6月に学校が再開されてから毎日短時間ではあるが、ビジョントレーニングやコグトレ(ET)などのトレーニングを行うことで、視機能の向上につながったと考えられる。</p>
5 成果・課題	<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p>○認知機能や視機能を向上させるトレーニングを行うことで、児童・生徒が自分の能力を高めることを通して達成感や満足感を得る。</p> <p>《検証方法》</p> <p>自己肯定感を問うための「自分自身に満足している」の質問項目に肯定的な回答を平均値を実施前後で比較し3ポイント上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>「自分自身に満足している」の質問項目に対する肯定的な回答の結果(調査対象：1年)</p> <p>7月 ⇒ 88% 1月 ⇒ 96%</p> <p>肯定的な回答を8ポイント上昇させることができた。コグトレ(ET)などのトレーニングを継続して行った。子どもたち自身、だんだんできるようになってくることで達成感を感じるようになった。また、その成果を教師が認め、称賛することで意欲にもつながったと考えられる。</p> <p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p>○不器用さを改善させるための教室・学校環境づくりを進め、さらにUD化を進める。それらの取り組みが、児童・生徒のボディイメージを高める結果につなげる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>体の発達、特に腕や手指の運動能力と関係が深い描画検査グッドイナフ人物画知能検査や運動能力を計る検査において実施前後で比較し平均値を3ポイント上げる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>グッドイナフ人物画知能検査(調査対象：1年)</p> <p>7月 71点(5歳11ヶ月) ⇒ 1月 95点(7歳11ヶ月)</p> <p>目標を上回り、24ポイント上昇することができた。</p> <p>日々の取り組みの中で、ボディーイメージを持てるような声掛けや、コグトレ(OT)などを行うことで、子どもたちに意識づけできたのではないかと考えられる。</p>

5	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果5】</b></p> <p>○教員の研究会・研修会参加を通して発達に対して専門的な知識を身に付けることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員へのアンケートを実施し「研修会に参加して役に立たった」の肯定的回数を80%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>今後も研修会があれば参加したいですか」の質問項目において肯定的な回答結果 (調査対象:全教員)</p> <p>肯定的な回答は100%という結果で、目標の80%を上回ることができた。</p> <p>専門的講師の方の研修会や講演会を通して、教員の専門知識を身に付けることに役立てことができ、さらに学ぼうとする意欲につながったと考えられる。</p> <p><b>【見込まれる成果6】</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>												
		<p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>今年度は、「児童一人一人の特性を見極め確かな学力を身に付けるための指導のあり方—発達に課題のある児童・生徒への支援と環境整備を通して—」を研究主題とした研究を初めて行った。本研究を通して、児童のアセスメントの視点を増やす研修会を行う予定としていたが、コロナ禍の影響もあり十分に行うことができなかつた。また、研究対象の児童・生徒の割合が少なかったためエビデンスレベルの高い結果を得ることができなかつたことが課題をいえる。しかしながら、少ない研修の中でも、専門家との連携をとることで、子どもたちに対して課題が何かを見極め、適切な支援方法を考え実践していくことができた。その結果、子どもたちの変容が明確に現れるようになり、子どもたち自身もできるようになったことで自己効力感が向上ていった。その結果、教師のモチベーションの向上にもつながつたことが大きな成果といえる。今後も、教員の研修会を充実させるとともに、教員間の連携を図り、さらなる支援方法の獲得をめざしたい。子どもたちのアセスメントをしっかりととり、課題にあった支援を行うことで、子どもたちの確かな学力を身に</p> <p><b>《代表校園長の総評》</b></p> <p>学校間連携を軸に多様な研修を実施し、児童のアセスメントも積極的に行ってきました。子どもたちの生活背景や発達上の特性から各校共通する課題を把握し、専門家の指導の下、さまざまな取組を実施した。本年度は、コロナ禍で計画を途中断念しなければならなくなつたことは残念であったが、計画を修正しながらできることを考え、研究を進め、成果を確認することができた。本研究では、小中学校の3校で特定の学級をピックアップして行い、成果を確認することができたので、今後は、各校において全体での取り組みを推進する中で、効果を実証していきたいと考える。</p>												
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td><td>令和 3 年 1 月 13 日</td><td>参加者数</td><td>約 10 名</td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="3">長橋小学校</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="3"></td></tr> </table>	日程	令和 3 年 1 月 13 日	参加者数	約 10 名	場所	長橋小学校			備考			
日程	令和 3 年 1 月 13 日	参加者数	約 10 名											
場所	長橋小学校													
備考														